

○「まずは非農家を含めた話し合いを」

(京都府宮津市 養老地区連絡会議)(平成30年度第1回)

担い手への
農地利用の
集積・集約化遊休農地の
発生防止・
解消新規参入の
促進その他
(農業委員会の
体制強化等)

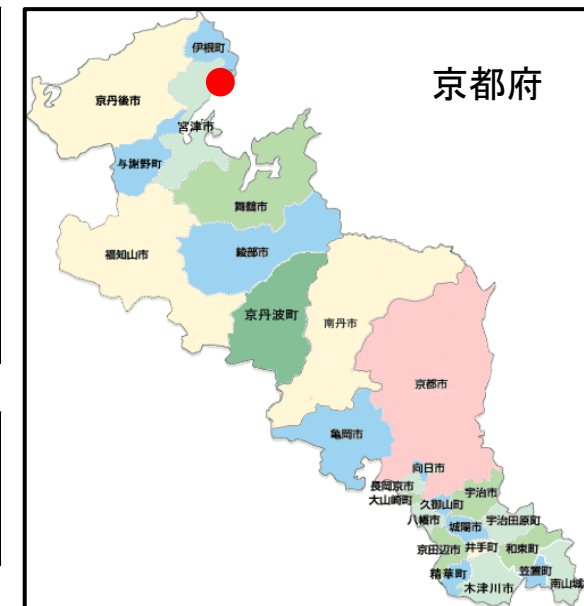
1 活動の日時や時期、場所等

- 日時(時期): 平成30年6月22日(金) 13:30～16:00
- 場 所: 宮津市養老集会所
- 出席者: 小嶋委員、品川推進委員、大銅局長
委員2人、委員以外1人
- 報告者: 増田 英雄 農業会議現地推進役

写真・図面
(地区連の写真又は
必要に応じた活動の写真や図面)

2 地区の特徴、状況、課題

- 大島…農業法人せんごくが地域の農地の受け手となっており遊休農地はない(常勤3人、水田4ha、ハウス18棟)
- 里波見…農家50戸、農地の条件が悪い 中波見…農家20戸、営農組合が高齢化
奥波見…農家8戸(50年前は28戸)、後継者なし、農家2人が中心



3 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化推進の取組と工夫)

- 奥波見では30歳代入植者が有機無農薬栽培、丹後町成願寺から通作者、2筆の遊休農地の保全ができていない、中山間交付金事業を活用しており、この事業がなくなれば保全は無理
- 移住希望者はあっても貸し空き家がない状況
- 現在の移住者は、全員が漁業に就業
- 課題は、後継者がいない、農業従事者がいないこと
- 集まる機会が少なくなっている状況で、まず非農家を含めた話し合いの機会を設定することが必要
- 大島地区では、久しぶりにさなぼりを開催。40歳代～の17人が参加。この集まりを今後につなげたい

4 活動結果

- 情報・意見交換 2.5 時間
- 担い手への集積 a 増加
- 遊休農地面積 a 解消
- 新規就農者 人 支援